

2019

ノートルダム女学院中学高等学校

Global English Course

9月28日（土） 高1「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ開催！

9月28日（土）、グローバル英語コース高校1年生を対象に、土曜特別講座「世界がもし100人の村だったら」ワークショップを開催しました。人口増加、貧困問題、食糧問題、教育の問題、……。世界が抱える問題を知識として知るだけだと、どうしても無味乾燥で、自分ごとでないものになります。このワークショップでは、世界の人口を参加生徒の数に見立てて（つまり、生徒一人ひとり当たり約3億人）、様々なアクティビティに取り組みながら、世界の実態を体感して学びます。世界の多様性を理解し、弱い立場にある人々へのまなざしを身につけるという、グローバル英語コースらしい学びが、この「ココロ動かされる2時間のワークショップ」にぎゅっと凝縮されていました。



9月30日（月） 高2社会活動センターシナピスでの研修を行いました

9月30日（月）、グローバル英語コース高校2年生を対象に、社会活動センターシナピスでの一日研修（シナピス研修）を行いました。日本に住む在留外国人は約273万人（2018年）。日本社会の少子高齢化が進行するなかで、より多くの外国人を受け入れる政策が進められる一方、劣悪な環境・低賃金で働くことを強いられる方々、在留資格を失い住む場所も行く先もない方々など、さまざまな困難を抱えている方々が多くいらっしゃいます。午前中は、こういった日本の現状についてレクチャーをいただいたあと、午後からはシナピスに関わっていらっしゃる8名の外国人の方々とともに、作業をしながら交流を深めました。

日本の社会がいま直面している問題の一端を深く知る、たいへん貴重な研修となりました。



NOTRE DAME
JOGAKUIN

Global English Course

2019

ノートルダム女学院中学高等学校

10月20日（日）
高2 シナピス研修・ International Day

高2グローバル生がInternational Dayに参加しました！

10月20日（日）、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で行われた International Dayに、グローバル英語コース高校2年生が参加しました。

午前中は多言語で行われる御ミサに与り、午後からは、お祭りに参加し、イベントスタッフとしてもお手伝いする機会をいただきました。

この研修は、約2週間前、9月30日に実施した事前研修と対をなすものです。昨日だけでも国際色豊かな一日を過ごすことができ、良い体験になったはずですが、この背後にある、在留外国人の方々が抱える課題、わたしたちの社会のあり方を理解することで、より深い学びとなったはずです。



2019

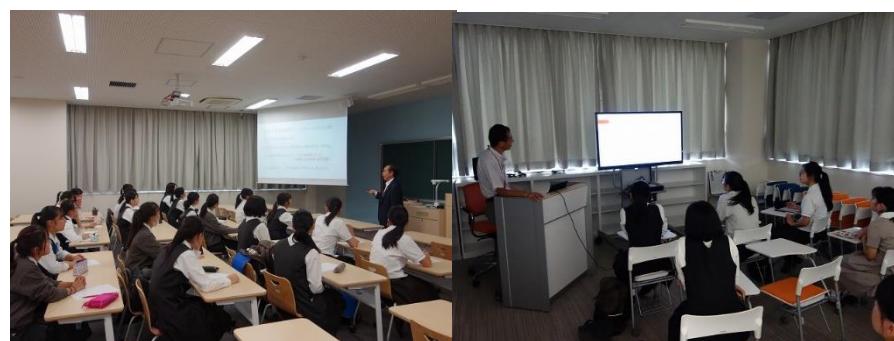
ノートルダム女学院中学高等学校

PREP 総合 Course

10月11日（金） 高1 みらいデザイン☆プログラム

10月11日（金）、プレップ総合コースの高校1年生は、京都ノートルダム女子大学を訪れ、大学との連携講座

「みらいデザイン☆プログラム」に参加しました。大学生向け授業を本校生向けに少しアレンジしていただいた内容で、大学の先生から実際の大学の教室で授業を受けるという、とてもリアルな授業体験でした。生徒たちからは「おもしろい」、「難しい」など、いろいろな声が聴かれました。高校2年での文理選択を前に、大学で学ぶ専門領域への理解を深め、将来のことを真剣に考える良い機会になりました。



10月19日（土） 高2 第2回みらいデザイン☆プログラム －みらいデザイン☆ハイスクール－

今回のイベントは、京都ノートルダム女子大学ワークショップデザインゼミ（濱中倫秀先生）の学生の方々による企画・運営で開催されました。『新しい幸せ』を考える、をテーマに、様々な社会人や大学生・大学院生との対話を通して参加者同士が多様な生き方や価値観を交換し、先入観や固定概念を超えたこれからの『幸せのカタチ』と一緒に探求するイベントです。綿密な準備、そして細やかな配慮や多くの仕掛けを用意してくださったおかげで、生徒たちはゲストの方々との交流を心から楽しむことができたようです。3時間があつという間に感じる素晴らしいイベントとなりました。ゲストの方々のほとんどが本校卒業生であったこともあり、自分の将来像を投影しやすかったかもしれません、終了後も帰らずにゲストの方にお話をうかがおうとする生徒が多く、いつになく積極的な姿勢を感じることができました。またゼミ生の方々とも話がはずんでいたようで、生徒たちが、今回出会った人たちからたくさんの『自分が幸せになるヒント』を得てくれていれば嬉しいです。また、司会進行やサポート役を担ってくださったゼミ生の方々にとっても、意義のあるイベントになっていることを願っています。



School Event

2019

ノートルダム女学院中学高等学校

9月21～23日 文化祭

9月21日(土)

校内で中3から高3の4学年が、学年別に演劇を披露しました。

9月22日(日)

OpenDayとして、生徒は保護者だけでなく、多くのお客様をお迎えして大変にぎやかな一日となりました。クラブなどの日頃の活動の成果を発表したり、個人のグループが舞台や模擬店で発表するなどの他、各コースが日頃の活動や研究の成果を発表する場となりました。

9月23日(月)

祇園花月を訪れ、吉本新喜劇を鑑賞しました。



10月 5 日 (土) 体育祭

ノートルダム学院小学校のグラウンドをお借りしての開催となりました。本年は天候にも恵まれ、予定通りに競技を行うことができ、大勢のご家族の皆様も応援に駆けつけて下さいました。



NOTRE DAME
JOGAKUIN

2019

ノートルダム女学院中学高等学校

10月20日（日）
ノートルダム学院小学校バザーへの参加

School Event

10月20日(日)、ノートルダム学院小学校にて行われたバザーに高校3年生のグローバル英語コースの生徒とオーケストラクラブが参加しました。グローバル英語コースの生徒は、フェアトレードを普及させる活動で、ビーズ作りのワークショップを行い、定員がすぐに埋まる事態となり、大盛況でした。オーケストラクラブは体育館での「NDステージ」で2曲演奏させていただきました。小学校出身の部員が半分以上で、小学校の先生方にも温かい目で見守っていただきました。



10月24日（木） 指輪贈呈式

10月24日(木)、高校3年生への指輪贈呈式が、父母の会主催で行われました。第11期生から始まって55回目を迎えた伝統ある行事ですが、スクールリングをもらい、皆さんとてもうれしそうでした。校長からは「あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、思いやりの心、親切、へりくだり、やさしさ、広い心を身にまといなさい。」(コロサイの信徒への手紙第3章)と、聖書の言葉を頂きました。



NOTRE DAME
JOGAKUIN

2019

ノートルダム女学院中学高等学校

入試広報

10月19日（土）中学生対象オープンスクール

10月19日(土)14時から中学生対象オープンスクールを開催しました。オーケストラクラブによるウェルカム演奏にはじまり、生徒による学校紹介、教育内容・入試説明、卒業生による体験談などにより、本校をアピールしました。参加された保護者の方からは、「ノートルダムの生徒さんは本当にしっかりしておられる」とのお言葉をいただき、スタッフの在校生たちにとってまた励みとなりました。



壹 手 曜

(第3種郵便物認可)

長寿犬573頭
ありがとう

京で認定式

動物の正しい飼い方などを呼びかける「京都動物愛護フェスティバル」が22日、左京区の岡崎公園で開かれた。長生きして

ユージアム



三林さん2年連続1位



2年連続1位の三林さん(中央)。左は2位の森脇さん、右は3位の松本さん(中京区で)

中学英語弁論府大会

森脇さん2位、松本さん3位

高円宮杯第71回全日本中学校英語弁論大会の府予選大会(読売新聞社、日本学生協会基金主催)が22日、中京区の読売京都ビルで開かれ、ノートルダム女学院中3年、三林心温さん(15)が2年連続で1位となった。2位は洛南高校付属中2年、森脇愛さん(14)、3位は立命館中2年、松本千穂さん(14)。3人は11月下旬東京で行われる中央大会に府代表として出場する。

育委員会の平川マシュー主

8校から11人が参加し、1人5分以内で、身ぶり手

ぶりを交え、声の抑揚をつかながらスピーチ。同志社

大グローバル地域文化学部

の稻垣俊史教授と京都市教

事(英語教育担当)が、内

容や英語力、表現力などを

審査した。

三林さんは「もつと『まう』と題し、認知症の人らが接客する「注文をまちがえる料理店」に行つた経験を踏まえ、働いている認知症の人も客も笑顔でいることの素晴らしさを伝えた。

森脇さんのテーマは「良い狼、悪い狼」。AI(人工知能)でも良い部分と悪い部分の双方があると訴えた。松本さんは「未来のための小さな努力」として、ペットボトルやレジ袋などのプラスチックの自然への影響を伝え、解決策も示した。

講評で稻垣教授は「スピ

ーチ力があるだけではなく、

本当に伝えたいことがあ

るかどうかが審査の鍵となつた」と述べ、平川主

事は英語で「なぜ英語を

学ぶのか。将来のためだ

けでなく、今、感じている

ことを英語で表現していく

つもりで勉強してほしい」と話した。

中央大会 全力出す 松本さん 本決勝へ進みたい 三林さん

「今年は夏休みが他の用事で忙しく、しっかり練習できずにお不安だったが、2年連続1位でうれしい。自分が思っていることを多くの人に伝えるため、中央大会では本決勝に進みたい」

声の出し方改善へ 森脇さん

「1週間ほど練習した時はミスが多くつたが、本番ではノーミスで話せて入賞できたのは良かった。声が小さいと指摘されたこともあり、中央大会までには声の出し方を改善したい」